

---

## 高齢者対策

(石井美恵子、國井 修・編：災害時の公衆衛生、東京、南山堂、2012、170-183)

2015年10月16日、災害医学抄読会 <http://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/circle/>

---

過去の震災対応からの教訓や高齢者の特徴を踏まえながら、高齢化の災害対応のあり方について考える。

### 【過去の震災での課題と教訓】

#### ■1995年阪神淡路大震災

・震災から数日が経過した頃に特に高齢者のストレス関連疾患、心血管系疾患、高血圧や肺炎などの呼吸器系疾患が増加。この震災関連疾患による死者は約900人であった。

⇒要因として、環境要因、慢性疾患の治療中断、避難生活の長期化による二次的・内科的疾患の増加、食事・栄養の問題などが挙げられる。

#### ■2004年新潟県中越地震

・高齢者の精神面のケアや生活機能の低下は、社会や家庭での「役割」「参加」の低下に端を発して急速に低下しやすく早期発見・早期対応が重要

#### 2007年能登半島地震

・災害救助法に基づき我が国で初めてとなる福祉避難所を設置。

⇒夜間のトイレの心配解消、行き届いた食事内容、プライバシーが確保された。

#### ■2007年新潟県中越沖地震

・福祉避難所が9か所設置され組織的な対応がなされた反面、福祉避難所の意義に関する周知の不足、設置場所の事前計画、ボランティアではない看護職の確保などが課題として挙げられた。

#### ■2011年東日本大震災

・甚大かつ広域な災害であり、その対応は非常に困難をきわめた。宮城県石巻市ではとくに死者数が多く津波被害も広範囲に及んでおり、回復の遅れが目立った。

⇒歩行困難、避難困難な被災者が津波被害を受けた建物で生活することは本人だけでなく救助する人をも巻き込んだ二次災害につながるため、より安全な場所への二次避難という観点から福祉避難所の設置が優先度の高い課題であると判断された。その後150か所以上に分散していた避難所を集約し、医療や保健福祉担当者らの活動拠点を固定化することで負担軽減につながった。

### 【これからの課題】

・環境変化に影響を受けやすく、かつ適応がより困難な高齢者の支援では巡回診療や投薬といった医療の範囲にとどまらない根本的な対策が必要である。

・危機管理においてHow toの対応策だけでは想定を超えた被害に対して適切な対応ができないため、優先順位をつけた対応計画が有効である。